

松戸市地域共生社会に向けた取り組み（地域づくりフォーラム）

聖徳大学心理・福祉学部社会福祉学科1年が3～4人のグループを作り、市内15圏域を中心に、その地区で支援にあたっている方々（小中学校教職員や障害者支援施設等）に対して、学生自身の問題意識を元にインタビューを行い、またフィールドワークを行なった。そこで聞き取りした内容・体験した内容を一部抜粋したものが以下になる。
（地域共生社会づくりの一助になれば幸いです。）

<p>中央圏域</p> <p>① <u>避難所への移動が困難な地域がある</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・実際に車いすで避難所へ避難することは介助者がいても急斜面であり難しい ・歩道等が凸凹であり車いすで一人で避難することは難しい ・地形に慣れている人でないとスムーズに避難ができない <p>② <u>住民の避難に対する意識の低さがある</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分は大丈夫だと過信してしまう ・町会の支援を拒否してしまい、自主防災の協力を呼びかけても拒否する人がいる <p>③ <u>生徒の不登校がある。原因として</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・朝起きられない ・家から学校までの距離が遠く通学が困難 ・不登校が続いたために勉強に遅れが生じ再び不登校になってしまう <p>④ <u>外国にルーツを持つ介護職に対してインタビュー</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護職は休みがとりにくく、宗教上の理由で休むことが難しい（クリスマスや日曜日のミサなどを休めない） ・日本語が難しいなど、言語に関する問題 ・介護職はとても大変なのに給料が少なくてモチベーションが上がらない（給料が割にあっていない）
<p>常盤平圏域</p> <p>① <u>高齢者を支援する施設に比べ、児童生徒を支援するための施設が不足している</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・子ども食堂 ・思春期外来・低価格で受診できる精神科 ・言語・文化の違いを支援する施設 <p>② <u>児童生徒の居場所が少ない（公園の不足、学習支援の充実・頻度、児童館、不登校児の居場所など）</u></p> <p>③ <u>学校内で発覚した問題を支援するために繋げていく先の地域の福祉施設の不足が目立つ</u></p> <p>④ <u>単親家庭が多く、貧困の問題を抱えている</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・届くべき福祉の情報が届きづらい ・医療費の負担ができない ・子どもの栄養不足 ・部費の負担ができないため、部活に入れず放課後の居場所がない

- ・虐待により家庭内での居場所がない、保護者も頼れる先がなく虐待がエスカレート
- ・在学中は学校が生徒を通じて各家庭をフォローすることができるが、卒業した後の支援方法がわからない。卒業後も家庭の孤立を防ぎたい

⑤ 外国籍の方が抱える問題がある

- ・貧困
- ・言語の問題
- ・学校から配られる手紙が読めず、期限なども分からない
 - ・地域のサービスや施設などの申請や申し込みに方法が分からない
 - ・地域に方とのコミュニケーションが取れず、孤立してしまう
 - ・文化の違い（地域の方とのギャップが生じ、馴染みにくい。日本の文化からは非常識に感じてしまう）

⑥ 障害者の社会進出の課題

- ・34年前の新京成線において障害者の方が特別支援学校への通学のため電車に乗っていた。→騒いでしまったりする事が多く、障害者を電車に乗せるなという爆破予告があった。それがきっかけでスクールバスでの迎が出来た為、社会、地域に出て行く機会がなくなった。

小金圏域

① 障害者支援施設の利用者や職員の思いから

- ・刺さるような視線が怖い。しかし、支援する側が守ろうとして困ると社会参加がストップしてしまう。
- ・自分の存在のせいで家族が苦しんでいるのが嫌だ
- ・あたたかい目がほしい（例えば、道端で立ち止まっている人を見つけたら電車の音気になっているのかな？）
- ・ボランティアで関わっていると受け入れる姿勢があり、自然とあたたかくなる→それが居場所になる

② 外国にルーツを持つ児童生徒の問題

- ・親子共に日本語が話せない外国人が多い（生徒児童の0.5%が外国人）
児童生徒の父親は働いているので、日本語を話すことができるが母親は専業主婦であることが多く、加えて日本人とコミュニケーションをとる機会が少ない。
- ・日本が話せない児童生徒は授業についていけない
- ・中国人と日本人の児童生徒がもめることがある
- ・宗教の関係で豚肉が食べられない生徒児童がいる（お弁当持参という形で対応）。

③ 不登校

- ・毎日夜中までスマートフォンやゲームをしている影響で朝起きられずそのまま学校にこないという生徒がいる。親に改善してもらえるように連絡を密にとっているが、あまり改善がみられていない。

④ 朝ご飯を抜く子が多い

- ・多くの子どもが貧困ではなく、保護者が朝食を用意していない。本当に貧困の家庭の子に実際におにぎりを挙げていたこともあったが、それが当然と思ってしまうように声掛けをする